

# イギリス文学・文化論ゼミ



## ◆担当教員：加藤 千博

- ・研究分野：イギリスユートピア文学、英語教育
- ・担当科目：「イギリス文化論」「イギリス文学 B」「European Culture in English」「海外文化実習」
- ・研究室：総研棟 210 ・ Email : [chihiro@yokohama-cu.ac.jp](mailto:chihiro@yokohama-cu.ac.jp) ・ HP : <http://katozemi.yokohama/>

◆ゼミ開設日：月曜 3 限（2 年生）；月曜 4 限（3 年生）；月曜 1, 2 限（4 年生） ◆定員：各年度 8 名

◆ゼミ説明会：11 月 28 日（月）12：10～12：40（本校舎 2 階 ゼミ 25 室） ◆公開ゼミ：随時

◆ゼミの概要：本演習で扱うテーマは、イギリス文学、英国文化、カルチュラル・スタディーズ、ポストコロニアル理論、英語教育など、イギリスに関わることであればおおよそ何でも設定が可能である。

初年度は、イギリス文学のなかでユートピア文学といわれるジャンルに属する作品・作家を研究する。具体的にはトマス・モア『ユートピア』、ジョナサン・スウィフト『ガリヴァー旅行記』、ウィリアム・モリス『ユートピアだより』、オルダス・ハクスリー『すばらしい新世界』、カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』等を扱う。小説やファンタジー文学も参照にしながら、文学・文化研究の方法を学んでいく。

授業では、エコロジーを切り口とした批評本 *Ecological Utopias: Envisioning the Sustainable Society* (Marius de Geus, 1999 年) をテキストとして輪読し、文学テキストから環境問題を考察していく。同時に、ポストコロニアル理論を中心としたカルチュラル・スタディーズ（言語、ジェンダー、移民、多文化主義、等）の観点から英国文化を考察し、旧植民地国との影響関係を学んでいく。

授業の進め方は、テキストを予習し、その内容を要約、場合によっては全て和訳しながら内容を確認し、ディスカッションを交えて理解を深める。授業と並行して、読書発表、英語学習の情報交換、映画鑑賞も行う。他のゼミとの合同発表会も開催する。学期末には各自の関心に基づいて研究発表を行う。

次年度以降は、ゼミ生の関心に沿ってテーマを決定するが、文化を中心に扱う予定。3 年次はイギリスの大学で 2 週間のサマーコースを受講し、その後 1 週間のフィールドワークを行う。この海外研修の事前準備をゼミと「海外文化実習」の授業内で実施する（卒論のテーマ、年間スケジュール等、HP を参照）。

◆メッセージ：文学・文化研究に必要なことは、多くの本に触れ積極的に異文化と関わること、そして語学力。本演習では英語力向上のためのトレーニングも行います。受講者は「国際文化クラスター」科目を選択し、「イギリス文化論」「イギリス文学 B」「European Culture in English」「海外文化実習」「APE」「初習外国語」の授業を必ず履修して下さい。国際プログラムへの積極的な参加もお勧めします。



## < 卒業論文題目 >

- ・ C.S.ルイス『最後の戦い』を読むーファンタジーと児童文学からの考察ー
- ・ 日本の多文化教育の在り方ーオーストラリア研究と比較してー
- ・ 後世に生きるジェイン・オースティンー*Pride and Prejudice* はなぜ今でもよみ継がれるのかー
- ・ 宮崎駿『ハウルの動く城』の価値の再考ー『ハウルの動く城』と *Howls' Moving Castle* における戦争描写の比較からー
- ・ J.K.ローリング『ハリー・ポッター』シリーズにおける死生観ー騎士道的価値観からみるハリーの「死」ー
- ・ Kazuo Ishiguro's *Never Let Me Go*: Childhood Memories and Nostalgia
- ・ ロアルド・ダール作品を読むー『チョコレート工場の秘密』『マチルダは小さな大天才』における児童文学的価値の検証ー
- ・ カズオ・イシグロ『日の名残り』における語り手の効果
- ・ ビートルズにとってのリヴァプールの価値ー階級と都市、そして歌詞に表されるリヴァプールの性質を踏まえてー
- ・ 『時計じかけのオレンジ』における最終章の意義ー原作と映画におけるエンディングの相違からの考察ー
- ・ 高齢者社会とボランティア活動ーNational Trust のボランティアプログラムから学ぶー
- ・ 1950年代のファンタジー文学ー伝統の象徴としてのカントリー・ハウスー
- ・ 『レ・ミゼラブル』の変遷ーミュージカル『レ・ミゼラブル』人気の理由ー
- ・ *Oliver Twist* がイギリス社会に与えたものーディケンズの生涯、作品から見る階級意識ー
- ・ ジェイン・オースティンの風景観ーピクチャレスク美学の観点からー
- ・ 映画小説術の提示ー高野和明作品を参考にー
- ・ Post-postmodern Foresight from the Philosophy of Philip K. Dick: Warning to Our Technology-centered Society
- ・ British Immigration Issue: Analysing from the Relationship between Brexit and the Premier League
- ・ 中学校・高等学校年代でのスポーツのあり方ースポーツ先進国イギリスから日本が学ぶべきことー
- ・ イギリスの標準発音とはーEstuary English が持つ標準発音への新たなる可能性ー
- ・ 日本におけるジェンダー教育の重要性ーイギリスのジェンダー教育から学ぶー
- ・ タータンと文化の伝承ーグローバル社会における文化保護ー
- ・ Dialect as an Indicator of Social Class in the UK: Cockney in *Pygmalion* by George Bernard Shaw
- ・ 日本における小学校英語教育の課題ーフィンランドの英語教育と内発的動機づけの観点からー
- ・ より良い日本語教育のあり方ー日本語学習者ユーパスの誤用調査を通してー
- ・ ジェンダー「平等」を達成するにはー『高慢と偏見』と『ブリジット・ジョーンズの日記』の比較よりー
- ・ 村上春樹『1Q84』における主題
- ・ イギリスにおける中国式庭園との文化交流に関する研究ーウィリアム・チェンバーズと王立キュー植物園を例にー
- ・ 日本で喫煙規制が進まない背景を探るーイギリスの禁煙法を参考にー
- ・ ケネス・グレアム『たのしい川べ』における動物ファンタジーとしての役割と効果ー諷刺する動物たちー
- ・ 日本における ALT の現状と問題の改善ーオーストラリアの日本語教育と比較してー
- ・ 日本における緊急避妊薬 OTC 化の課題ーヨーロッパ諸国と比較してー
- ・ 日本の性教育の課題と解決案の提言ー英国の事例と比較してー